イボタロウムシ

ハシドイなどモクセイ科樹木の枝がびっしりと白いロウ状物質で覆われる．

晩秋，落葉後に発生に気づくことが多い．とても目立つが，木の成長等への影響はごくわずかである．

１．雄幼虫の分泌した綿状物質（白い部分）．

雌成虫の死骸（赤茶色の丸い球）．

1994/2．帯広市，街路樹のライラック．

２．越冬中の雌成虫．１の拡大．

【学名】 *Ericerus pela*

【分類】 カメムシ目（Hemiptera），カタカイガラムシ科（Coccidae）

【分布】 北海道，本州，四国，九州，沖縄；朝鮮～ヨーロッパ．

【特徴】

冬芽近くで越冬中の雌成虫は楕円形，背中が膨らむ．体長5mm．成熟すると径1cmほどの球形になる．

【生態】

宿主： モクセイ科（トネリコ，アオダモ，イボタ，ハシドイ，ライラックなど）．

年１回発生，成虫で越冬する．道内での生活環は調査されていない．本州では産卵は５月下旬頃，幼虫の孵化は６～７月頃である．

【被害と防除】

街路樹のハシドイなどでしばしば多発するが，樹勢の低下や枯死は報告されていない．防除は普通必要とされない．

気になるときは秋から冬の間に白くなった枝を切除する．

【その他】

白い部分は白ロウと呼ばれ，古くは工業用や薬用に用いられた．このため，イボタロウムシの養殖が行われたこともあるという．

【文献】

1977．奥野孝夫，田中寛，木村裕．原色樹木病害虫図鑑．保育社，大阪．（形態，生態，防除の解説）

1980．河合省三．日本原色カイガラムシ図鑑．全国農村教育協会，東京．（分類，形態，寄主の解説）

北海道立林業試験場・緑化樹センター

イボタロウムシ kaigara/ibotaro/

kaisetu.htm

「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2001/2/5.

1higai.JPG，1seichu.JPG

「写真１～２」 原秀穂，北海道立林業試験場，1994.